

# 図画工作科調査研究報告書

書名 観点	開隆堂出版 小学校図画工作					
	1 3 1	1 3 2	3 3 1	3 3 2	5 3 1	5 3 2
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料を基に造形遊びをする活動については、木の葉をちぎり石を並べるなど、自然物を操作したり、自分たちの好きな場所をビニールシートやテープなど身近な素材を用いて作り上げたりする学習活動を取り上げ、進んで表す態度や表現する態度、創造的に表現する態度を身に付け、つくりだす喜びを味わうことができるようになっている。</li> <li>○ 表したいことを絵や立体、工作に表す活動については、インクや墨などいろいろな材料を用いて絵に表したり、色づくりや筆使いなどを工夫して木を描いたり、空き箱や木を用いて立体を表したりする学習活動を取り上げ、進んで表す態度や表現する態度・創造的に表現する態度を身に付け、つくりだす喜びを味わうことができるようになっている。</li> <li>○ 作品などを鑑賞する活動については、友達の作品の工夫を見つけたり、互いの感じ方の違いを交流したり、互いの作品の特徴を話し合ったりする学習活動を取り上げ、面白さや楽しさ、よさや美しさを感じ取ることができるようになっている。</li> <li>○ 共通事項については、好きな形に目や手足を付けてマークをつくったり、紙粘土に色を練り込んで生活に使える楽しい形を表現したり、接写した写真の色や形からイメージを膨らませたりする活動を通して、形や色などの感じや造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つような学習活動が取り上げられている。</li> <li>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、のこぎりや金槌を使う作業を設け、道具の使い方慣れることができるように工夫されている。例えば、第 3,4 学年では「トントンつないで」、第 5,6 学年では「わたしはデザイナー 1 2 才の力で」などが取り扱われている。</li> </ul>					
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成については、土や砂などの材料や方法について、学校や地域の実態に応じて選択できるように配慮されている。また、北海道に関連した冬の造形遊びが取り扱われている。</li> <li>○ 内容の排列については、例えば素材について色紙から色画用紙、ボール紙へと、発達段階に応じて発展的に学習できるよう工夫されている。</li> <li>○ 内容の分量については、たとえば第 1,2 学年では「材料を基に造形遊びをする活動」が 10 ページ、「表したいことを絵や立体、工作に表す活動」が 63 ページ、「作品などを鑑賞する活動」が 24 ページとなっている。</li> </ul>					
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「小さな美術館」と「ゆめをかたちに」を設け、児童の興味・関心に合わせた作家の作品とメッセージを掲載し、意欲を高める工夫がなされている。</li> <li>○ 基礎的・基本的な内容や授業の振り返りを囲みで示すなど、児童が主体的に取り組むことができるように工夫されている。</li> <li>○ 必要な知識や、題材ごとに培いたい力を示すマークを掲載したり、紙面全体の配色や写真の配置を工夫したりするなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>					
その他	○判型はA 4 サイズを採用している。					

# 図画工作科調査研究報告書

書名 観点	日本文教出版 小学校図画工作					
	1 3 3	1 3 4	3 3 3	3 3 4	5 3 3	5 3 4
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料を基に造形遊びをする活動については、身近な場所を自然や人工の材料を用いて変身させたり、風や水の動きとその効果を考えて美しい空間を構成したりする学習活動を取り上げ、進んで表す態度や表現する態度・創造的に表現する態度を身に付け、つくりだす喜びを味わうことができるようになっている。</li> <li>○ 表したいことを絵や立体、工作に表す活動については、心に残る出来事や場所を絵に描いたり、すごろくなどの楽しく遊べるものをつくったり、ダンボールや板材で楽しむものを作ったりする学習活動を取り上げ、進んで表す態度や表現する態度、創造的に表現する態度を身に付け、つくりだす喜びを味わうことができるようになっている。</li> <li>○ 作品などを鑑賞する活動については、美術作品の人物の動作を真似たり、お気に入りのものをならべたり、美術作品やいろいろな模様をカードにして友達と話し合ったりする学習活動を取り上げ、面白さや楽しさ、よさや美しさを感じ取ることができるようになっている。</li> <li>○ 共通事項については、紙を切る・ちぎるなどして生まれた形を基に絵に表したり、光にいろいろなものをあてて、楽しい影の形に表したり、液体粘土で布を瞬間的に固めた形から想像を広げて表したりする活動を通して、形や色などの感じや造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつような学習活動が取り上げられている。</li> <li>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、のこぎりや電動糸鋸を使う活動を設け、道具の使い方に慣れることができるように工夫されている。例えば、第3,4学年では「ギコギコクリエイター」、第5,6学年では「一枚の板から」などが取り扱われている。</li> </ul>					
内容 の構 成 排 列・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成については、段ボールや新聞紙などの材料や方法について、学校や地域の実態に応じて選択できるように配慮されている。また北海道に関連した彫刻作品が取り扱われている。</li> <li>○ 内容の排列については、例えば素材について、色紙から画用紙、ダンボールへと、発達段階に応じて発展的に学習できるよう工夫されている。</li> <li>○ 内容の分量については、たとえば第1,2学年では「材料を基に造形遊びをする活動」が16ページ、「表したいことを絵や立体、工作に表す活動」が72ページ、「作品などを鑑賞する活動」が24ページとなっている。</li> </ul>					
使 用 上 の配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 形や色の美しさを味わう「ぞうけいのもり」「教科書美術館」や自由にイメージを広げる「図画工作の広がり」を掲載し、意欲を高める工夫がされている。</li> <li>○ 発想や鑑賞をする際の視点を吹き出しなどで表すなど、児童が主体的に取り組むことができるように工夫されている。</li> <li>○ 材料や用具についての説明を示すマークを掲載したり、紙面のデザインや文字の色を工夫したりするなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>					
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 判型はA4レターサイズを採用している。</li> </ul>					